UNIT 01　動詞の形①　現在形・過去形

1．健太郎は生物部の部長です。動植物について多くの知識があります。	Kentaro is president of the biology club. He knows a lot about plants and animals.
2．毎年300人を超える生徒が本校に入学します。	Every year, more than three hundred students enter this school.
3．お父さんのお仕事は？ ── 父は自動車を設計しています。	What does your father do? ── He designs cars.
4．私は普段は自転車で登校しますが、雨の日はバスに乗ります。	I usually ride a bicycle to school, and I take a bus on rainy days.
5．太陽は東から昇り西に沈む。	The sun rises in the east and sets in the west.
6．友人の乗った飛行機は午後２時ごろ大島に到着します。	My friend's plane arrives at Oshima at about 2 o'clock in the afternoon.
7．ひかるが舞台に出てきたら手を振りましょう。	When Hikaru comes onto the stage, let's wave our hands.
8．保健室で少し休めば、気分が良くなるよ。	If you take a rest in the nurse's room, you will feel better.
9．子供のころ、私は神戸に７年間住んでいました。	I lived in Kobe for seven years when I was a child.
10．昨日、私は大好きな俳優のジョージ・クルーニーにちなんでその犬にジョージという名前をつけました。	Yesterday I named the dog George after George Clooney, my favorite actor.
11．夜遅くに試験勉強をしていると、いつも母は私に何か食べ物を作ってくれました。	When I studied for tests late at night, my mother always cooked me something to eat.

現在形

現在形を使うのは、話し手が事実と考えている事柄を述べるときだ。「現在」という名前がついているが、現時点だけに限らず、「昔も、今も、そしてこれからも」通用するという含みがある。

現在の事実

「～である」「～を知っている」などの状態を表す動詞（＝状態動詞）や、「～する」などの動作を表す動詞（＝動作動詞）を現在形にして現在の事実を述べる。

［例文1］　現在部長であるという事実を述べている。なお、president（部長）など普通は１人しかいない役職名が補語になるとき、その役職名に a や the などはつけない。

［例文2］　これまでも 300 人以上が入学し、今後もそうであろうという前提がある。

現在の職業・日常習慣

現在の職業・日常習慣は「昔も、今も、そしてこれからも」通用する（と思われる）事柄なので現在形で述べる。

［例文3］　職業を述べたり尋ねたりする場合。

［例文4］　日常習慣を述べるときは、動作動詞を、usually など頻度の副詞と一緒に使うことが多い。

真理や不変の事実

［例文5］　「昔も、今も、そしてこれからも」通用する事柄なので現在形で述べる。

確定事項

［例文6］　時刻表や行事予定表などで決定済みの事柄は、この先ほぼ確実に事実となることだから、現在形で述べる。その際、未来を明示する語（句）を一緒に使うことが多い。

未来の出来事

時または条件の副詞節では未来の出来事を述べるのに現在形を使う。これは、主節の動詞から判断して文全体が未来の話だとわかるので、わざわざ未来の表現を使う必要がないからだ。

［例文7］　時の副詞節の場合。「手を振ってみよう」という主節の内容から未来の話とわかる。なお、時の副詞節を作る接続詞には when の他に before ～（～する前に）、after ～（～した後に）、until ～［till ～］（～するまでずっと）、as soon as ～（～するとすぐに）、by the time ～（～する時までには）、once ～（いったん～すると）などがある。

［例文8］　条件の副詞節の場合。「気分が良くなるよ」という主節の内容から未来の話とわかる。

過去形

過去形を使うのは、話し手が過去の事実として考えている事柄を述べるときだ。過去を明示する語句と一緒に使うことが多い。また、過去の習慣を述べるときは頻度の副詞と一緒に使うことが多い。

過去の事実

［例文9］　「住んでいた」という過去の事実を述べている。when 以降の内容が過去を明示している。

［例文10］　「名づけた」という過去の事実を述べている。yesterday が過去を明示している。

過去の日常習慣

［例文11］　「いつも作ってくれた」という過去の日常習慣を述べている。「when...night」の部分が過去を明示している。